

オキナワモズク盤状体及び種網の冷蔵保存試験

専門技術員 瀬底正武

本試験の詳細は、昭和60年度技術改良試験報告書において報告したので、ここでは要約だけを記す。

要 約

- (1) 今回の冷蔵保存による採苗試験では、保存に入る前の採苗が満足にできず予定通りの成果を得ることはできなかった。
- (2) 採苗水温は、27℃以上特に30℃以上になると配偶子及び中性遊走子の放出が極端に少なくなる。
- (3) 採苗水温は、20℃～27℃が適当である。
- (4) 庫内の温度は+5℃を基準に上、下1℃～2℃の差では盤状体の生育には何ら影響はなかった。
- (5) 冷蔵保存用盤状体の種板及び種シート等への着生密度は薄付けより濃付けが長期保存に適していることが分かった。
- (6) 種網の冷蔵保存については、①漁場までの輸送時間や②種網地の乾燥③パンライト内での種網の長期放置等により良い成果を得ることはできなかった。
- (7) 種シート種苗の生育状況については、収量的には良い結果は得られなかったが生長の面では通常採苗藻体よりも冷蔵保存による盤状体採苗が前期、中期の生長が早いことが分かった。
- (8) 種網の生育については、今回の試験では収量的には失敗におわったが部分的に着生している個体については、シート採苗とほぼ同様の生長を示した。
- (9) 種網の長期（1ヶ月以上）パンライト保存は適当でないことが分かった。